

### SAGA COLLECTIVE 協同組合 山口様への質問と回答

- Q 取組スタート時（2021年）と比べて注目度は上がっていると感じますか？また、参画している地域企業さんが取り組んで良かったと思われていることはどのようなことですか？
- A 講演・視察の依頼、メディア掲載、商品の売上が上昇傾向であることから、世間一般からの注目度は上がっていると感じています。特に、2025年4月から佐賀新聞にてSAGA COLLECTIVEのメンバーの脱炭素の取り組みを紹介する連載もはじまり、地元でも脱炭素への関心が高まっているを感じています。参画メンバーは、グッドデザイン賞、グリーン購入大賞、脱炭素チャレンジカップなど全国区のコンテストでの受賞を評価しています。本取り組みが第三者評価を得ることで、参画メンバーの活動に対する社会的な信頼性が高まり、結果的に各社の好感度アップにつながっているようです。お客様や従業員の満足度やロイヤリティ向上の一助となっています。
- Q 発表の中で「米国に進出を」という記述がありましたが、各国のエシカル受容度など比較研究されしていましたら教えてください。
- A 各国のエシカル需要度の比較研究を行ってはおりませんが、商談などの実務ベースでは、欧州では「エシカル」が取引における前提条件となっていることを感じています。一方米国は前提条件とはなっておらず、一部の層に対して付加価値を与える要素にとどまっています。日本もどちらかと言えば米国の状況に近いです。
- Q 脱炭素を進めると電気代が上がる方向に進むと思うのですが、それでもグリーンなエネルギーを進めるべきですか？
- A 電気代とカーボンオフセット費用の合計で比較すれば、グリーンなエネルギーの方が経済的なケースもあります。考え方にもよりますが、CO<sub>2</sub>排出をコストに換算して、電気プランや省エネ設備の投資判断に組み込んだ場合、グリーンなエネルギーや省エネ機器の導入が進むと思います。CO<sub>2</sub>排出コストを加味しない場合、グリーンなエネルギーが経済的に優位になるケースは稀有であり、導入を躊躇うのも当然だと思います。過度なGX投資で会社を潰してしまっては元も子もないで、適切な判断だと思います。
- ただし、2028年度の炭素賦課金の導入が政府のGX基本方針に明記されていることから、CO<sub>2</sub>排出コストを加味しなければならない状況はやってくると思います。

### 羽後ガス(株) 子野日様への質問と回答

- Q LPガスとカーボンオフセットの仕組みを詳しくお聞きしたいです。
- A カーボンオフセットLPガスは、「ガスが燃焼する時」に発生するCO<sub>2</sub>の排出量を実質ゼロにしたLPガスを指します。実質ゼロにするために使用するLPガスの分、クレジットを購入する方が、弊社がLPガスを仕入れる際にクレジットとともに購入し、お客様にも通常のLPガスの料金にクレジットを載せた金額でご購入いただきます。カーボンオフセットLPガスの質は、通常のLPガスと変わらないため、設備も変えることなく、非常にシンプルな仕組みとなっています。

<p>Q カーボンオフセットするためのクレジットは、主にどこから調達されていますか？ クレジットの購入先は何をもって選定されていますか？</p>	<p>A 弊社ですと、LPガスを仕入れている岩谷産業(株)を通して調達しています。「ボランタリー」か「Jクレジット」かということ、また「省エネ由来」か「森林由来」かなどの由来は選定できるため、お客様にご希望を聞いて選定しています。どこからクレジットを購入するのか、というところまでは選定ができず、お任せしている状況です。</p>
<p>Q 地元生成のカーボンクレジットを使いたいという事でしたが、カーボンクレジットを扱っている業者から秋田生成のクレジットを仕入れる事が出来ると思いますがいかがでしょうか？</p>	<p>A 非常に貴重なアドバイスをいただき感謝いたします。横手市でも販売しているということ、また直接販売されている業者様もいらっしゃることなので、今後進めてみたいと思います。</p>
<p>Q カーボンニュートラルの価値を普及するために期待することはなんですか？</p>	<p>A カーボンニュートラルに取り組むために、企業は多少のコストや労力をかけて真摯に向き合うことになるので、その部分が企業価値となるよう、自治体をあげて評価がされていくことを期待します。</p>
<p>Q 地元のカーボンオフセットが選べることは非常に大事な視点だと思います。実現の上でのハードルはありますか？</p>	<p>A 横手市でも販売しているということ、また直接販売されている業者様もいらっしゃることなので、今後進めてみたいと思っています。ハードルとしましては、由来によってクレジットの金額が違うと思いますので、実際にカーボンオフセット LPガスをご利用いただくお客様にとって見合った金額のクレジットが提供できるかということ、また安定的な調達について、自社での管理部分等に少し不安があります。</p>
<p>Q 公共工事のオフセット導入について、自治体とどのような連携をされていますか？</p>	<p>A 公共工事のオフセット事例に関しましては、あくまで公共工事を請け負った民間業者様に直接ご採用いただいたかたちにとどまっておりまして、自治体とはまだ連携までいたっていない状況です。今後、自治体がカーボンオフセットをさらに重要視されると、タイアップできることもあるかと思いますので、提案をしていきたいと思います。</p>
<p>Q ガス使用量は年々増加しているのか、他エネルギーに変わっているのか、ガスを効率良く利用できるようになって減っているのかを教えていただきたいです。</p>	<p>A あくまで弊社の記録となります。ガスの1件あたりの単位使用量はここ10年ほどで下がってきてます。省エネ給湯器が主流になってきたこと、また各ご家庭の家族人数が減ってきたことなどが原因の1つとなっていると推測しています。お年寄りの方がIHのコンロに変えることも年に2、3件はありますが、LPガスの使用量として多く使われるものは給湯器です。ガスの給湯器から電気の給湯器に変わられるお客様はあまりいらっしゃらないので、そういう意味でも最初の2つの理由が大きく関わっていると思います。</p>

## (株)権右衛門 須田様への質問と回答

Q GAP と J-クレジットの相乗効果をもう少し詳しく教えてください。

A GAPを取り組んでいることで、安全な農産物の生産、環境への配慮、労働者の安全確保、農業経営の改善に取り組んでいることを GAP に関心のある取引先であれば難しい説明なく理解してもらえる点。また社内全体で事故を起こしてケガしないように作業環境の改善を意識しての営農が期待できる点。

参考：「日本 GAP 協会公式サイト」<https://jgap.jp/gap/>

Jクレジットについても、脱炭素、環境に配慮した取組みをしている農場、ということが容易につたわる点。

Q Jクレジットの販売先は三菱商事が行っているのでしょうか。また貴社が創出したクレジットは全量、売れているのでしょうか？

A 販売先は三菱商事が行っています。創出したクレジットは全量売っています。売れ残るということはありません。

Q まとめた取引をする上で、にかほ市全体でのブランド化ができたらいいなと思いますが、実現する上でのハードルはありますか？

A 農業者が激減している現状でさらに農産物が再生産できる適正価格になっていないのでブランド化して盛り上げよう！と考える農業者を増やすのは難しい。SAGA COLLECTIVE のような組織をにかほ市でもとイメージはしていましたが、同じ想いで取り組む仲間づくりには時間がかかる。時間ががないなかで。

Q ジオパークとの連携を具体的に知りたいです。

A 参考：「にかほ市公式サイト」

<https://www.city.nikaho.akita.jp/material/files/group/5/2024-11-01-22.pdf>

<https://www.city.nikaho.akita.jp/soshikikarasagasu/norinsuisanka/gyomuannai/1/1/3/5874.html>